

実践 徳之島町立図書館

1 はじめに

徳之島は、亜熱帯の独特の風土を形成する琉球弧に属する。アマミノクロウサギ等の希少動植物の生息する自然豊かな島である。島の伝統文化である闘牛や、島唄等の郷土芸能も盛んだ。

明治から大正期の徳之島町は、「亀津学士村」を中心に、東京大学をはじめとする旧帝国大学出身者を数多く輩出した「ヤンキチシキバンの精神（天井の梁＝ハリが映るほどの水がゆ等の粗食に耐えて子弟の教育に情熱を傾注した）」と呼ばれる教育風土があった。

徳之島町立図書館は、平成16年に町の中心地に新築された複合施設生涯学習センターの1階にある。どの書架も、幼児の手が届く低書架で、開放感のある明るい館内が特徴的だ。

2,000冊の知と夢を積み込んで、約45kmの縦に細長い町内の13校の幼稚園・小中学校と30か所の施設・集落のステーションで巡回貸出をしている移動図書館車「ハイビスカス号」は、特に子どもたちに待ち望まれる存在である。



学校巡回貸出

2 幼児・児童・生徒対象の主な事業

児童・生徒の図書館利用者・読書人口増を重点目標に事業計画を立て、蔵書構成も児童書の比率を高めるように目標設定して購入計画を立てている。

(1) 主に幼児・児童・親子対象の館内行事

お話し会

第2・4土曜日に、職員とボランティアで、紙芝居や絵本の読み聞かせ等をしている。春・秋の読書週間には「お話し会スペシャル」として、中・高校生のボランティアと職員によるエプロンシアター等をしている。

また、定期的な幼稚園・保育園・小学校の館内読み聞かせ会や、図書館見学や遠足などの来館時にお話し会を開催している。

親子読書講座の開催

親子読書に関心のある人なら誰でも参加できるように講師を招き、親子読書に対する基本的な講話やワークショップを開催している。保護者や親子読書グループにとって学習・研修の場として好評を得ている。



親子読書講座・ワークショップ

(2) 主に幼児・児童・親子対象の館外行事

保・幼、小学校への出前お話し会の開催

緑陰読書会

夏休みに幼稚園や小学校の校庭の木陰で、絵本の読み聞かせ、パネルシアターやエプロンシアター等を実施している。毎年、教員研修等の先生方の協力も得ている。



校庭での緑陰読書会

「絵本のプレゼント」とお話し会の実施

乳児検診時に、保健センターへ出向いてお話し会を開催し、対象の親子には後日図書館で「絵本のプレゼント」とお話し会を行っている。

(3) イベント的な事業

月遅れ七夕まつり

七夕の由来や昔の島の七夕まつり・民話等のお話し会の後、七夕飾りを作って記念写真を撮り、飾りと一緒に各自持ち帰ってもらう。(毎年約70~100人の親子が参加。郷土学習の一環として、かつて行われていた旧暦の年中行事を体験させ、郷土の習俗や先祖の生活を紹介・理解を深めてもらう目的。以前は旧暦5月5日の行事も開催していた。)

クリスマスフェスタ

小・中・高校生のボランティアや親子読書会・朗読サークル等の協力を得て、劇や器楽演奏、ペープサート、読み聞かせ、マジック等毎年200人以上の親子が参加する当館最大のイベントである。

3 学校と連携した事業

(1) 移動図書館車「ハイビスカス号」の学校・幼稚園等への巡回貸出し

- ・年間約160回

(2) 学校団体貸出

- ・図書室貸出

11校へ年2回

1校1回約150~400冊

- ・学級文庫貸出 30~50冊

(3) 学校司書補との連絡会 年2回、児童生徒の読書活動の連携について協議会開催

(4) 学校司書補の実務研修会開催

(5) 職場体験学習の受入れ 小・中・高校生

(6) 教職員職場研修(ステップアップ研修等)

(7) 校長、教頭研修会での図書館事業説明及び連携・協力依頼



クリスマスフェスタ



児童・生徒読書活動推進協議会

4 おわりに

奄美群島の各図書館は、読書活動に力を注いでいる地域として実績を上げているところである。僭越ながら、徳之島町立図書館は徳之島の情報発信と生涯学習の拠点、そして読書活動の推進拠点と考えている。その取組としては他館とさほど変わらないと思うが、とりわけ子どもたちの読書活動には思い入れを強く取り組んでいる。おかげさまでこの2年間で、子どもの読書活動推進と実践活動に鹿児島県と文部科学省から表彰を受けた。

このことは、課題はまだまだ山積しているが、当館の今後の取組への期待と激励のしるしと受け止め、一層の努力を重ねていきたいと心している。